

## いまをだいじに

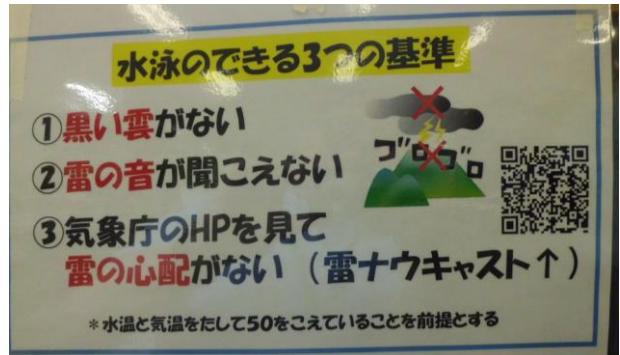
夢を持ち なかよく かしこく たくましく 生きる室っ子をめざして  
～いまをだいじに なかまをだいじに～

校長 宮脇 真一

水泳ができる準備が整ったのですが、生憎の雨でなかなかプールに入れません。こどもたちも悶々として毎日を過ごしています。

水泳は、楽しい活動であると同時に、常に、危険が伴う活動です。御家庭での健康観察への御協力を確実にお願いします。

学校では、本省からの通達や昨今の事故事例とともに判断基準を確認し、授業実施の可否を判断していますのでお知らせします。



各教室に掲示 (2025/6/13撮影)

## こころの中は ~気持ちに思いを馳せる~

新しい学年になって2か月が過ぎました。この時期、こどもたちの心の中は、お互いの距離が近くなり、ぶつかり合っている様子が見られることがあります。成長の過程でぶつかり合うことは決して「いけないこと」ばかりではなく、「ぶつかり合った後」が大事だと私は思います。

言いすぎたこと、言えなかったこと、心のため込んだこと、そっと心にしましたこと。

生きていく中で、誰しも経験することです。そんな中で、相手の気持ちをどのように受け止めるか、相手の気持ちにどう思いを馳せるか。また、自分の気持ちをどう表現すれば相手に伝わるのか。相手へ攻撃は一時的な発散になることはあっても、根本的な解決にはなりません。そして、これは、口で言うほど簡単なことではありません。こどもたち、実は私たちも、その時のもやもやした気持ちの中で、発してしまう言葉、とってしまう行動には、時間がたって振り返ったとき、後悔することも少なくありません。(少なくとも私自身はその失敗をたくさん経験し、相手に不快な思いをさせ、自分自身も心を傷めた経験がたくさんあります)

もめ事が起きたとき、こどもたちに「本当はどうしたかったのか?」問うと、「なかよくしたかった」「一緒に行動したかった」という根底の気持ちを、様々なやりとりの中で聞くことができます。これも、すぐには話してくれません。自分の気持ちに素直に向き合うには、それなりの時間とそれを支えてくれる安心感のある空間・人が必要です。

6月4日(水)の全校集会で、私は自分自身の経験を語りました。(HPに掲載しています)。もう40年以上前の話です。きれいにまとまる話ではなく、今でも私の心に引っかかりのある経験です。救いは多くのこどもたちから、様々な形での反応があったことです。

いまをだいじに、なかまをだいじに。自分となかまとの関係性を振り返る6月です。

## 教育の日 ~16日(月)です~

今回は、4年生がくまもと障害者労働センターの倉田哲也さんをお招きしての人権集会、5／6年生が大津町国際交流協会会长の大塚麻里子さんをお招きしての総合的な学習の時間の授業を予定しています。時間等詳細は室小学校HPをご覧ください。

こどもたちの活動の様子は、本校HP (<https://es.higo.ed.jp/muro/>) でも公開しています。